

鶴岡市文化会館（荘銀タクト鶴岡）財務書類について

令和6(2024)年6月

このレポートは、鶴岡市文化会館（荘銀タクト鶴岡）のオープン5年目にあたる令和4(2022)年度の財務状況について、民間企業会計の手法にならない、総務省が定めた「統一的な基準による地方公会計制度」（新公会計制度）に基づいて作成した財務書類の概要をお伝えするものです。

これまでの官庁会計による決算だけではわかりにくい資産・負債などのストック情報や、減価償却費等を加えたコスト情報を明確にすることで、市民の皆さんへの説明責任の充実や、マネジメントの強化を今後も図ってまいります。

1 施設の概要



荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）大ホール
（写真提供 鶴岡市教育委員会）

【施設の名称】

荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）
ネーミングライツパートナーを（株）荘内銀行とし、通称を「荘銀タクト鶴岡」としています。

【土地や建物】

- 敷地面積：13,096.84㎡ ➢建築面積：5,756.35㎡
- 延床面積：7,846.12㎡
- 構造：鉄骨造、鉄筋コンクリート造、杭基礎
- 整備総事業費：96億7,600万円

【建物内の設備】

- 客席数 大ホール：固定1,120席、多目的鑑賞室：15席
- 貸室 小ホール、練習室、会議室、楽屋、託児室

【開設の時期】

- グランドオープン 平成30年(2018)年4月

2 施設の稼働状況 令和4(2022)年度

【自主事業】

- 開催事業：13件（前年度17件）
事業内容：右表のとおり
- 入場者合計 7,960人（前年度7,661人）

【貸館事業】

- 利用件数：316件（前年度285件）
主な利用：市内小中学校の合同音楽会や、高校吹奏楽部の演奏会などの市民利用
- 利用者合計 52,451人（前年度39,949人）

【その他】

- 市民サポーター登録者数
公演サポート部門：33名
アーティスト部門：66団体（個人含）

主な自主事業名 (入場者数500以上の事業)	実施年月日	入場者数 (人)
劇団四季ミュージカル『ロボット・イン・ザ・ガーデン』	R4.6.11	954
酒井家庄内入部400年記念 宝生流能楽公演 祝賀能	R4.6.14	829
Noism×鼓童『鬼』	R4.7.30	568
工藤静香 35th Anniversary Tour 2022～感受～	R4.8.28	1,040
夏川りみ コンサートツアー2022～たびぐる～	R4.9.11	540
宝くじ文化公演 歌園迎賓館	R5.3.11	1,029
山形交響楽団 庄内定期演奏会 第31回 鶴岡公演	R5.3.17	1,000

3 財務状況 令和4(2022)年度

資産と負債 (貸借対照表)

資産	負債
81億5,600万円 (前年度 83億7,500万円)	49億1,900万円 (前年度 54億6,800万円)
主な内訳 ●土地 2億2,600万円 ●建物等 79億2,500万円 ●物品等 500万円	主な内訳 ●建設費に充てた市債 49億1,900万円
純資産 32億3,700万円 (前年度 29億700万円)	

令和5(2023)年3月31日現在

【資産について】

土地建物や物品(ピアノや緞帳、舞台道具)など、事業用の固定資産が、その大半を占めています。

【負債について】

建設費に充てた市債の償還残高が、その大半を占めています。

【純資産について】

資産と負債の差であり、債務なく将来世代へと引き継がれる、純粋な市民の資産にあたります。

【参考指標】

市民一人当たりの資産と負債

資産	負債
68,194円 (前年69,007円)	41,129円 (前年45,054円)
純資産 27,065円 (前年23,953円)	

鶴岡市の人口
119,599人

(令和5(2023)年3月31日現在 住民基本台帳)

【参考指標】

有形固定資産減価償却率 **12.3%** (前年度9.8%) ～耐用年数に対してどのくらい老朽化が進んでいるか

算式：減価償却累計額/有形固定資産(土地等の非償却資産除く)+減価償却累計額

➤建物の耐用年数は、財務書類の作成基準上、50年と設定されています。竣工から間もないため低水準ですが、減価償却が進むことで、今後徐々に上昇していきます。

➤今後の見通し

資産は、建物や物品の減価償却が進むことで徐々に減となりますが、負債についても、市債が15年間で償還されていく予定であることから、それを上回る早さで減となることが見込まれます。

この結果、純資産の形成が進むこととなりますが、建物や設備の経年劣化に計画的に対応し、市民の資産としての価値を保つために、適切に維持補修を図ってまいります。

費用と収益 (行政コスト計算書)

科目名	金額(千円)	前年度(千円)
経常費用	433,725	432,598
人件費 運営にあたる職員の給与等	0	0
物件費等 自主事業費、維持補修費等	205,706	202,959
減価償却費	218,739	219,391
支払利息 建設費に充てた市債の利払い	9,280	10,248
その他	0	0
経常収益	45,814	35,099
使用料 チケット代、貸館収入等	36,657	29,879
その他	9,157	5,220
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	387,911	397,499
臨時損失 災害復旧事業費など	-	-
臨時利益 資産売却益など	-	-
純行政コスト	387,911	397,499

【経常費用について】

令和3年度からの指定管理委託への運営移行に伴い、人件費はゼロとなっています。物件費等は、自主事業の開催経費等の委託料が減額となった一方、原油価格や物価の高騰に伴う光熱水費等の需用費の増額により、前年比で約270万円の増額となっています。

【経常収益について】

施設利用による貸館収入等が増額となったことにより、前年比で約1,000万円の増となっています。

【純行政コストについて】

経常収支と臨時収支の合計額で、文化会館の運営にあたり、市が負担しているコストにあたります。

【参考指標】

市民一人当たりのコスト **3,243円** (前年度3,275円)

算式：純行政コスト/住民基本台帳人口 (119,599人※)
※令和5(2023)年3月31日現在

【参考指標】

受益者負担比率 **10.6%** (前年度8.1%) ～費用はどのくらい収益でまかなわれているか

算式：経常収益/経常費用

➤今後の見通し

令和3(2021)年度から指定管理委託による運営に移行しており、引き続き、経常収支の改善、純行政コストの削減など、運営のさらなる効率化を図ってまいります。